



あゆみの家祭 デイセンターあゆみの家 発表 11/15 (土)

あゆみの家

No. 146号

これまでの55年、これから55年

社会福祉法人あゆみの家は、多くの方々を支えられ、この四月に創立55年を迎えます。

55年という年月で、社会の姿は大きく変わりました。制度も環境も変化する中で、問い続けてきたのは「一人ひとりを大切にす支援とは何か」ということでした。障がいのある人も、ない人も、それぞれが尊厳ある存在として地域で生きていく。その当たり前を実現するために、私たちは日々の支援に向き合ってきました。

あゆみの家の根底には、キリスト教精神があります。それは決して特別な思想として前に出るものではなく、「隣人を思いやる心」や「弱きを抱える人に寄り添う姿勢」として、日々の実践の中に息づいています。支援とは、何かを与えることではなく、共に考え、共に悩み、共に歩むこと。その姿勢を大切にしてきました。

利用者の皆さんの生活の場には、喜びもあれば、迷いや葛藤もあります。その一つひとつに向き合い、その人の思いや選択を尊重することが、私たちの支援の中心です。時間がかかっても、本人の意思に寄り添う。その積み重ねこそが、あゆみの家の歩みそのものでした。

一方で、これからの社会は、さらに多くの課題を抱えています。少子高齢化による人材不足、災害への備え、共生社会の実現など、私たちに求められる役割は広がっています。だからこそ、これまで培ってきた経験と信頼を礎に、地域とつながり続けることが重要だと感じています。

聖書には、「多くの部分が集まって一つの体を形づくる」という言葉があります。それぞれが異なる役割を担い、支え合うことで全体が成り立つ。その姿は、地域社会そのものではないでしょうか。あゆみの家も、その一部として、静かでも確かな役割を果たしていきたいと願っています。

次の55年は、次世代へとバトンを渡していく時間でもあります。利用者の皆さんが、自分らしい生活を続けていけること。そのために、現場に立つ一人ひとりの職員が、迷いながらも支援の意味を問い続け、成長していきける法人でありたいと願っています。

支援の現場に、決まった正解はありません。だからこそ、利用者の声に耳を傾け、立ち止まり、考え、また一歩を踏み出す。その積み重ねを大切にしていきたいです。

これまで築いてきた関係や信頼は、一朝一夕に生まれたものではありません。その重みを受け止めながら、あゆみの家は、これからも地域の中で必要とされる存在であり続けたいと思います。

利用者の皆さんがこれからも自分らしく暮らし続けられるよう、進むべき道を見失わずに歩んでいきます。

「社会福祉の土台」

理事 齋藤 幸二



ずいぶん前の話ですが、一九九五年一月七日の朝日新聞「声」の欄に「命が尊いのはなぜだろうか」という題で、ある女子大生の投稿がありました。それは、「命は地球よりも重いという。それはなぜか。当たり前だと思っていたこと理由を、不思議と知らない」という、(人間)の命の尊厳の根拠を問うものでした。この投稿に対して、いくつかの意見が寄せられました。この投稿から十日目の一月一七日に阪神淡路大震災が発生し、さらに命の尊さや人生の意義についての問いや意見が寄せられました。

人間の命の尊厳とは、人間という存在の尊厳ということですが、その根拠を知るためには、聖書の人間観に立たなければなりません。

聖書の冒頭の書である創世記の一章二七節にこう記されています。「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」

神がすべての人をご自分に似せて創造した、ということとは、すべての人は神の尊厳を反映する者として造られ、神の特別な慈しみの内に置かれた、ということなのです。ですから人間の価値の評価は人間の側

にあるのではなく、万物と共に

人間を造った創造者の側にあるのです。したがって自分や他者を見下げたり虐げたりする者は、

神を侮る者とされるのです。聖書に「弱者を虐げる者は造り主

を嘲る。造り主を尊ぶ人は乏しい人を憐れむ。」(旧約聖書

箴言 十四章三一節)と記されている通りです。そして、すべて

の人に対する神の慈しみは、イエス・キリストの生涯において、さ

らにはつきりと示されました。神の御子であるキリストは、すべて

の人を分け隔てなく受け入れ、大切にされたのです。

すべての人は、神の尊厳を映すものとして造られた、ということを見失うとき、人間を生産性や能力だけで評価するようになってしまいます。しかし、そのような社会は人間性を失った、殺伐としたものとなり、決して幸せな社会とはなりません。わたしたちは、これからも、神の愛という土台の上に立ち続けてゆきたいと思えます。



地域とつながるフェスティバル

あゆみの家祭 実行委員 岡安 桃花

毎年秋に実施されるあゆみの家祭は、利用者の皆さんが一同に集まり、ステージ発表や、模擬店などを楽しみます。また普段、私達と関りの少ない地域にお住いの方に、よりあゆみの家と利用されている方について知っていただきたいと、お招きしているイベントです。

コロナ禍、あゆみの家祭は、二年間中止されました。再開後も、残念ながら地域の方をお招きできず、縮小実施が続きました。そこで今年度は、関わりの深い地元地域の方を中心に回覧板等でお声かけし、足を運んでいただきました。また地元の団体の方や、学生等多くのボランティアの方にもお手伝いしていただきました。

「みんなウエルカム楽しくわっしょいあゆみフェスティバル」というテーマのもと、天候に恵まれ、透き通った青空と暖かな陽射しの下、ステージ背面には大きな看板と、利用者の皆さんの作品が飾られ、華々しい会場となりました。開会宣言からはじまり、テーマ発表では、ドラムロールに合わせくす玉を引き、良いスタートをきる事が出来ました。

開会式後は、あゆみの家と長く交流のある地元の不破中学校吹奏楽部の皆さんに来ていただき、ティズニーや元氣ソングメドレー等、よく知っている曲の演奏で、多くの方が、口ずさまされたり、手を振ったりと中学生の真剣な演奏に聞き入っていました。

事業所ごとに工夫を凝らしたステージ発表では、大阪・関西万博のミヤクミヤクに仮装してのダンスや、寸劇など、演舞する利用者さん、見ている方双方が盛り上がる発表となりました。

地域で営業しているキッチンカーの中から、「ミスベティ

ー(ワッフル)」、「北村商店(大判焼)」が出店してくださり、甘い香りや、のぼり旗で、お祭りの雰囲気を作り一層感じる事が出来ました。

後半は、フォークバンド「かがり火」をお招きし、明るい気持ちになれるオリジナルソングを中心に演奏を楽しみました。最後にあゆみの家のテーマソングである「丘の上のあゆみの家」を、会場が一体となり歌い、盛り上がりました。利用者実行委員長による閉会宣言により楽しい雰囲気の中、今回のあゆみの家祭は終了しました。

今年度のあゆみの家祭は、「楽しかった」、「良いあゆみ祭になった」と沢山の嬉しい言葉をいただくことが出来ました。その背景には、ご家族の方、ボランティアの方、地域の方など沢山のサポートがあり、毎年楽しく安全に行う事が出来ているのだと思います。

地域で愛される「あゆみの家」である為に、このあゆみの家祭というイベントをさらに楽しく、多くの方に来ていただき、たくさんの方が生まれる、そんなあゆみの家祭をこれからも良いアイデア出し、継続していきます。



模擬店での買い物



林町デイセンター発表

地域とともに歩む、グループホームでの暮らし

きずな 生活支援員 桐山 弘巨

二〇二五年も、グループホームでの暮らしの中で、地域との交流や季節を感じる行事や日帰り旅行を通して、思い出がたくさん増えた一年でした。ここでは、二〇二五年にグループホームで過ごした一年間の思い出をご紹介します。

地域では、近所の方とのあいさつや、ちょっとした声かけなど、日々のふれあい自然に生まれ、温かく見守られながら暮らしています。ある日、地域の方から新鮮な野菜をいただきました。後日、感謝の気持ちを伝えるため感謝状をお渡しに伺うと、とても喜んでくださり利用者皆さまにとっても、心に残る出来事となりました。こうした小さなやりとりが、安心や笑顔につながっています。

季節の行事では、土用の丑の日に、日々の買い物で獲得したイオンポイントを活用して、うなぎパーティーを各ホームで開催しました。皆さん美味しい鰻を沢山食べて力を付けました。夏には流しそうめんやかき氷、スイカ割りを行い、楽しみながらも猛暑を乗り切りました。それぞれの行事を通して、四季を楽しんでいます。

今年度も日帰り旅行を計画し、旅行を楽しめました。六月には掛川花鳥園を訪れ、色とりどりの鳥や花と一緒に写真撮影をすると笑顔もお花と同様に華やかでした。十月には木下大サーカス名古屋公演の迫力ある公演を楽しみました。昼食は名古屋名物の高級「ひつまぶし」を味わうと、お腹も心もいっぱい旅行となりました。伊賀の里もくもくファームに行つた際は、ソーセージ作りに挑戦されました。挽肉の腸詰め作業では、冷たく、ぶよぶよの挽肉の感触に皆さん驚かれています。十一月の岐阜コースでは、鵜飼ミュージアムを見学し、岐阜の歴史に触れる機会となりました。昼食は都ホテルでビュッフェを楽しみ、ワンランク上のお食事を好きな物を好きなだけ食べられていました。

休日には、お一人おひとりが自分の好きな余暇を過ごし、

散策や買い物、編み物などを楽しみながら、思い思いの時間を過ごされています。日々の生活の中では、ご自身ができることに取り組み、自分の役割を持ちながら、安心して暮らしています。今年度の日帰り旅行では、ホーム単位での多数決による旅行先の決定ではなく、利用者一人ひとりの希望に沿った旅行先を選択、実施することが出来ました。今後も意思決定支援を心掛けることで、利用者の希望を実現できるように努めていきたいです。また、きずな2006・きずな2025が営む六つのホームでは、地域の皆さまとの関わりを通して、共に笑顔がこぼれる、あたたかな場所であり続けたいと思います。



木下大サーカス（名古屋公演）



お散歩

虐待防止・身体拘束検討委員会 活動報告

委員長 伊藤佐知子

障害者虐待の防止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律（略称 障害者虐待防止法）は、障がい者に対する虐待を防止し、障がい者の権利や尊厳を守るために制定されました。あゆみの家の虐待防止・身体拘束検討委員会は、この法律が目的としている『虐待防止・予防、早期発見等』に取り組むため、各事業所から一名ずつ委員が選出され、年五回の委員会を開催しています。虐待防止の啓発や予防、虐待事案発生時の対応に加え、身体拘束適正化について、差別解消と合理的配慮についても研修や意見交換を行っております。

施設における虐待の共通の構図として、次の内容があげられます。

- ① 虐待は密室の環境下で行われる（環境）
- ② 障がい者の権利を侵害する『小さな出来事』から心身に傷を負わせる行為にまで次第にエスカレートしていく（意識）
- ③ 職員に行動障がい等に対する専門的な知識や技術がない場合に起こりやすい（専門性）

委員会では毎回、各事業所の小さな出来事を報告してもらっています。小さな出来事を共有していくことは、虐待行為の芽である『不適切な支援』に気が付くきっかけと

なり、虐待防止の意識を高めていくことにもつながります。各事業所でも研修や啓発など虐待防止の取り組みを行っています。委員会でその内容を共有することで、法人として共通認識を持って取り組み、組織として環境整備や意識向上、専門性を高める取り組みなどを検討することを目指しています。風通しの良い組織作りが、虐待防止には欠かせませんので、各事業所が連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

利用者の権利や尊厳を守り、より良い支援を提供していくためには、私たち支援者は「この支援で良かったのか」と、振り返ることも大切です。一人ひとりの虐待防止に対する意識を高めていくため、全職員が『職員行動チェック表』を毎月チェックしています。この『職員行動チェック表』は、法人共通項目と事業所の特色に合わせた項目で構成されています。あゆみの家が大切にしていききたい支援を全職員に意識して働いてもらえるように、共通項目の見直しは委員会で行っています。

『あなたは利用者の話をよく聞き、願いや思いに添うような対応をしていますか？』

これが一番初めのチェック項目です。利用者の皆さんが自分らしく生活や活動ができるように、『願いや思いに添う支援』を丁寧に行える組織作りを委員会として目指していきます。

キラキラ えがおで たのしいクリスマス 祝会にしよう

クリスマス祝会実行委員長 ぐっどらんど生活支援員 古川 泰宏

昨年引き続き、今年のクリスマス祝会もご家族やご招待客をお招きしての開催となりました。

本会場となった、デイセンターあゆみの家には、第二あゆみの家のご利用者やご家族もお集まりになり、林町デイセンターとぐっどらんどはズームで参加をしてクリスマスをお祝いしました。

今年度も利用者実行委員は、ズームで何度も話し合いをして、決定した内容をそれぞれの事業所の仲間にお伝えする役割を担っていただきました。また当日は、午前中の本会場とそれぞれの事業所での午後の催し物にて、挨拶や司会進行を務められました。皆さん、自信をもってご自分の言葉で話すことができ、練習を重ねた成果をお見せすることができました。

午前の部のゲストには、愛知県立芸術大学管打専攻生によるアンサンブル演奏の「クララング」さんにお越しいただきました。パストロンボーン、ピアノ、オーボエと、どの楽器も今までに聴いたことのないような美しい音色を奏でられ、会場には緩やかで心地よい時間が流れました。目を閉じると、まるで異国の大聖堂で行われているクリスマスコンサートのように錯覚を覚えるほどの上質な音楽に触れる経験に、ご利用者やご家族、ご招待客や職員も、うっとり静かに耳を傾けられていた姿が印象的でした。

皆さん楽しみにしていた昼食では、星形のハンバーグや大きなエビフライの入ったお弁当と温かい汁ものに「おいしいね」と舌鼓を打ち、その後の午後の部では、デイセンターあゆみの家はビンゴ大会、林町デイセンターはグループ発表、第二あゆみの家ではプレゼントをお渡しし、ぐっどらんどはゲスト演奏と、それぞれの事業所で趣向の凝らした催しを行いました。

最後にはおいしいケーキを食べて、「キラキラ えがおで たのしいクリスマス祝会」となりました。



第二あゆみの家



デイセンターあゆみの家



ぐっどらんど



林町デイセンター

出来事ピックアップ



11/1 (土) 象鼻山フェス
【きずな】



12/4 (木) 大垣市役所作品展示会
【林町デイセンター】



12/7 (日) チャレンジダンス
【きずな】



12/27 (土) すいか演奏会
【第二あゆみの家】



1/10 (土) 新年会
【ぐっどらんど】



1/14 (水) いちご狩り
【デイセンターあゆみの家】

最近のできごと (11/1~1/31)**〈法人全体〉**

- 11/15(土)あゆみの家祭
 12/20(土)クリスマス祝会
 12/25(木)クリスマス礼拝(職員)
 1/17(土)中間層職員研修会

〈デイセンターあゆみの家〉

- 11/21(金)1日外出(金華山ロープウェイ)
 1/10(土)新年会
 1/21(水)1日外出(いちご狩り)

〈林町デイセンター〉

- 11/20(木)個別外出(名古屋スイーツパラダイス)
 12/23(火)1日外出(各務原航空宇宙博物館)
 1/29(木)1日外出(各務原航空宇宙博物館)

〈きずな 2006、きずな 2025〉

- 11/1(土)象鼻山フェス
 11/7(金)きずな日帰り旅行 岐阜コース
 12/25(木)ホームクリスマス会
 1/2(金)お正月イベント(お寿司出前)

〈第二あゆみの家〉

- 11/5(水)、18(火)もみじG1日外出
 (ふれあい牧場ひつじの里、MAGO 関)
 11/6(木)なのはなG1日外出(彦根市:海水園)
 12/2(火)いちようG1日外出(ヤンマーミュージアム)
 1/29(木)もみじG 喫茶外出

〈ぐっどらんど〉

- 11/21(金)西濃マルシェに参加
 1/10(土)新年会
 1/30(金)ドリームグループ喫茶外出

行事予定

- 4/3(金)創立記念行事(法人全体)

ボランティア (11/1~1/31)

- 11/21(金)大垣市赤十字奉仕団綾里分団(ぐっどらんど)
 12/27(土)すいか(音楽グループ)の演奏(第二あゆみの家)
 1/10(土)ふるさと大垣おもてなし隊(林町デイセンター)

ふれあい交流 (11/1~1/31)

- 1/27(火)綾里こども園(ぐっどらんど)

共同募金 配分事業

今年度11月20日(木)、岐阜県共同募金会より配分を受け、「生活介護事業所 ぐっどらんど」で使用する車両(車種は日産 セレナ)を購入することができました。

この車両は主にぐっどらんどで使用させていただきます。みなさまの善意に感謝申し上げます。ありがとうございました。

**あゆみの家バザーのお知らせ**

4月25日(土) 10:00~15:00

会場 / 垂井町文化会館

ご家庭に眠っているまだまだ使える不用品の献品もよろしくお願いいたします。

編集後記

雪が降ると通勤、雪かきなどが大変です。しかし、雪が降っているのを見ていると風情があっていいなあとも思います。

聖書によると、雪よりも白く私たちの罪の汚れを聖くする神さまがいてくださいます。神さまに助けていただいて、いつも真っ白な雪のような聖い心で歩んでいきたいなあと思います。(伊藤)

編集：社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2

Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>

E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp

**グループホームのご案内**

●めぐみホーム

不破郡垂井町表佐

●表佐ホーム

不破郡垂井町表佐

●東神田ホーム

不破郡垂井町東神田

●あいかわホーム

不破郡垂井町

●別庄ホーム

養老郡養老町橋爪

●橋爪ホーム

養老郡養老町橋爪



AYUMI_IE_GIFU

公式 Instagram